

観音寺市立学校等再編基本方針

平成 22 年 2 月 23 日

観音寺市教育委員会

1. はじめに

平成20年6月1日、観音寺市教育委員会は、学識経験者、学校関係者、保護者代表、地域団体代表、一般公募委員から構成される「観音寺市立学校再編計画検討委員会」に対し、少子化、校舎の老朽化の状況を踏まえ、中長期的展望にたち、次代を担う子どもたちによりよい教育環境を整備するため市立幼小中学校における学校規模及び学校配置のあり方についての検討を諮問、平成21年4月14日、同検討委員会より「観音寺市立幼・小・中学校の適正規模・適正配置の基本的考え方並びに再編整備の具体的方策について」とする答申を受けた。

観音寺市教育委員会は答申の趣旨を尊重しつつ現状と課題を見極め、地域事情、財政状況、施設状況を勘案し、学校教育の充実と教育行政の効果的かつ効率的運営の視点に立ち、この基本方針を定める。

2. 学校再編の意義

観音寺市教育委員会では学校教育目標を「新しい時代をひらく 心豊かで たくましい子どもの育成」、幼稚園教育指針を「一人一人の子どもが輝く確かな幼児教育の充実」(いずれも平成21年度)としている。豊かな体験を充実させて、生きる力にあふれる子どもたちを育てていくためには、一定規模の集団のなかでお互いが切磋琢磨し、豊かな人間関係を築いていくことが不可欠である。

しかし、少子化等の要因により学校や幼稚園の規模が小さくなっている現状では、個々に応じたきめ細やかな教師の目が届いた教育活動ができる反面、集団での学習活動の展開で難しい面もあり、また人間関係の固定化や対人関係の変化に対応しきれない子どもがいることも否定できない。

観音寺市教育委員会としては、個々の子どもたちに十分かかわる環境に配慮しつつも、子ども一人一人が、将来大きく羽ばたくことができるよう、より多種多様な経験を積むことのできる環境、そして何よりも安心安全で学べる環境を作り上げることが急務であると考えます。このためには、これを実現できる学校規模への再編を積極的に推進していく。

これにより、新たな地域と学校の関わり、通学距離の変化など様々な問題が発生することが想定されるが、観音寺市教育委員会としては「子どもたちの生きる力」の育成を第一に、派生する諸問題については、地域住民や保護者の意見を傾聴しながら解決していくことが重要と考えている。

3. 統廃合のプラン

- ① 観音寺南小学校と観音寺東小学校を統合し、新設小学校とし早期の開校を目指す。統合

小学校の設置場所は、新たに学校用地を確保する方向で、早急に位置の決定を行なう。

- ② 観音寺幼稚園、高室幼稚園、常磐幼稚園を統合した幼稚園を新たな用地に設置することとし、早期の開園を目指す。
- ③ 大野原小学校・萩原小学校・紀伊小学校については平成26年度から紀伊小学校で複式学級が予想されることから、概ね5年以内の統合を目指す。
- ④ 栗井小学校と豊田小学校又は、柞田小学校の統合等については児童数の推移等を見守りつつ検討を進める。
- ⑤ 一ノ谷幼稚園、豊田幼稚園、柞田幼稚園の幼稚園統合については、設置場所の決定が重要となり、決定後すみやかに事業着手できるよう総合的に準備を進める。